みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.178

令和３年９月１日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
ＴＥＬ０９３０－３３－４６６６
ＦＡＸ０９３０－３３－４６６７

博物館休館日カレンダー 2021年 9月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9

□ 休館日

※情報はR3.8.21現在
※9/1～9/12は緊急事態宣言に伴い臨時休館

◆博物館ＮＥＷＳ

二つの「古代のモノづくり」が、子どもたちの熱気でにぎわいました！

❶夏休みチャレンジ教室「勾玉をつくろう！」
❷夏休み子ども体験教室「土器をつくろう！」

満員御礼

―サポート学芸員がお届けする、ものづくり会場の迫真リポート！―

博物館では夏休み企画として二つの体験教室を開催しました。

コロナ禍ではあっても、安全な環境下でじっくりとモノづくりに取組めるこの企画は、子どもたちの「モノづくりスピリッツ」に火をつけたようで、どちらも募集早々に定員に達し、当日は静かながらも熱気あふれる一日となりました。

以下、担当学芸員から当日の様子をリポートします。

❶勾玉をつくろう！（7／25・8／1）

図書館の「夏休みチャレンジ教室」で「勾玉」を作りました。博物館の出張展示「古代のジュエリー勾玉展」と併せて企画されたもので、当館学芸員による勾玉の説明後、図書館・博物館スタッフのサポートを受けながら一生懸命に石を削った後、きれいに磨き上げて「世界に一つだけ」の勾玉が完成しました。古代の人々と同じ体験をしながら楽しく歴史を学ぶことができた一日となりました。

❷土器をつくろう！（8／8）

1万年以上作られ続けている暮らしの中の万能の器（うつわ）・土器。粘土を使って縄文土器風の簡単な器作りにチャレンジ頂きました。

最初は扱い慣れない粘土に苦戦しましたが、コツをつかむと皆さんスイスイとマイ器作りに全集中！最後に個性あふれる土器が勢揃いしました。

▲粘土をひものように伸ばして積み上げる「輪積み法」と呼ばれる方法で土器の形をつくります

▲上：勾玉をつくろう！/下：土器をつくろう！に参加した子どもたち　皆さんお疲れ様でした!!

▲勾玉の材料となるろう石を削り出す様子
本物は水晶などを一月近くも削ったとか…

◆講座・教室・催し物ガイド

9月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
※中止

【古典かな講座】
9月18日（土）　9時30分～

【古文書講座】
9月18日（土）　13時30分～

【みやこ学講座】
9月25日（土）　10時～

※新型コロナウイルス拡大防止対応に伴い日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

開催中止等決定イベントについて

博物館や文化係が所管・支援する文化事業のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止対応に伴い、開催の中止等が決定したイベントが発生しています。8月末時点における該当事業は左記のとおりとなりますのでご参考下さい。

なお、このほかに対応が確定したものが発生した場合、町や館の広報・HP等で順次お知らせするよう致しますのでご了承下さい。

また詳細について不明の点等ございます場合は博物館（☎33－4666）までお問合せ下さい。

①文化月間記念発表会（文化協会事業）
10月16・17日開催予定を中止

②みやこ町古墳まつり
10月31日開催予定を中止

③産業祭記念発表会（文化協会事業）
11月20・21日開催予定を中止

7月の業務日誌から

▲皆で協力して、みやこ町の歴史と文化のすばらしさを伝えることができました。

7月18日（日）、東京オリンピック出場に向けた事前キャンプ中のオセアニアの陸上選手とオンライン交流会がありました。この中で黒田小学校6年生の児童が学校や校区内にある古墳について発表しました。また様々な質問を通してオリンピック代表選手を身近に感じることができ、思い出に残る「国際交流体験」となりました。

7月25日（日）、永沼家住宅で夏の一斉除草が行われました。今年は「石垣美観復活プロジェクト」と銘打ち、ボランティアグループが石垣清掃に着手。清掃後の石垣はお城のような美観を取り戻しました。

▲石垣の苔が取り除かれると見事な石積みが現れました

みやこの歴史発見伝 141

令和とその時代 ⑲

―豊前国分寺三重塔を科学する④―

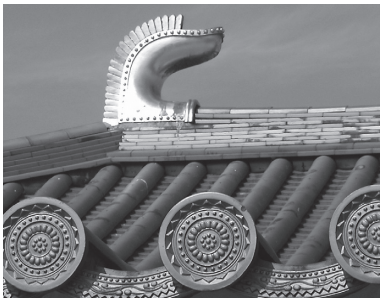
「まじない」と「ワクチン」

新型コロナウイルス感染症対策に伴うワクチン接種が実施されているところですが、令和の歌が詠まれた奈良時代は今日同様に「天然痘」という疫病が国内各地に蔓延し、150万人以上の人々がその犠牲になったと推計されています。当時はワクチン接種などの医療行為はもちろん、医療施設さえない状況で、病は人体に取り付く「病魔」がその原因と考えられ、これらを追い払う「まじない」が唯一の医療行為とされました。豊前国分寺も仏教の力で疫病の終息や国内の安定を目的に建立されたもので、特にそのシンボルとなる「塔」や「金堂」などの主要な建物には「魔除け」や「火事除け」の願いが込められた瓦が葺かれ、発掘調査等でもその一部が確認されています。今回はこの「魔除け・火事除け瓦」から当時の国分寺の建物をみてゆきたいと思います。

二種類の装飾瓦

博物館の巨大な瓦葺の屋根は奈良時代の寺院建築等をモチーフにしたもので、豊前国分寺跡・上坂廃寺の出土資料をもとに復元・製作されたものです。このうち軒丸瓦は、先月ご紹介した「蓮華文」の軒丸瓦で、現在の豊前国分寺三重塔にも同じ瓦が葺かれています。

これとは別に屋根の頂部にある棟の両端に向き合った形で一対の金色に輝く「しゃちほこ」のような瓦が「鴟尾」です。また屋根の四隅に設けられた下り棟の端部には厳めしい形相の鬼面を象った「鬼瓦」をみることができます。この2つの瓦は一種の「まじない」目的の装飾瓦として用いられたものです。現在、これらの瓦は当時の建築を復元した資料として博物館の屋根を飾っています。



博物館の屋根を飾る軒丸瓦（手前）と鴟尾（奥）

「鴟尾」とは

「鴟尾」とは奈良から平安時代にかけて宮殿や寺院建築の大棟の両端に飾られた1対の装飾瓦で、後の城郭建築にみられる鯱鉾の祖型に位置付けられています。沓を立て掛けたような独特な形状から「沓形」とよばれることもあります。その明確な起源は確認できませんが、鴟尾の「鴟」は鳥の鳶を意味しており、また古代中国やインドの空想上の魚「鯱」を表したという説もあります。「鳥でも魚でもない伝説上の生物」の鴟尾ですが、火事の際には水を噴き出して火を消すという伝承は共通しており、建築物を火災から守る「まじない」や「守り神」として屋根の最上部に設置されているところが非常に興味深いものです。

陶製の鴟尾は、重量軽減やひび割れを避ける目的で内部が空洞になっているため、非常に壊れやすい特徴がみられます。上坂廃寺でもその破片が出土しており、金堂等を飾っていたものと思われます。福岡県内では9遺跡で鴟尾の出土が確認されていますが、そのうち3遺跡が上坂廃寺を含むみやこ平野に位置する遺跡であることも注目されます。

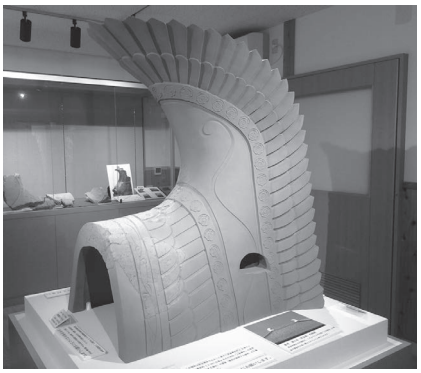
豊前国分寺跡出土鬼瓦（復元品）

「鬼瓦」について

鬼瓦は、その名のとおり鬼の面が象られた装飾瓦で、「魔除け」を目的としたものです。しかし初期の鬼瓦には意外にも鬼面ではなく「蓮華文」が用いられました。国内最古の「鬼面」の鬼瓦は当時の都の奈良ではなく大宰府を中心に九州で出現し、豊前国分寺跡では厳めしい形相をしたリアルな鬼瓦片が出土しています。

2つの瓦を焼いた窯

豊前国分寺から南へ約4㎞に位置する船迫窯跡（築上町）は、発掘調査によって豊前国分寺や上坂廃寺の建立に伴い、その瓦を製作・供給するために営まれた窯であることが確認されました。大量に出土した各種瓦の中でも、鬼瓦と鴟尾が窯に残された形で出土したことは全国的にも注目され、調査・研究の結果、それぞれ豊前国分寺、上坂廃寺に供給するために制作され、その焼成段階で割れたために遺棄されたことが判明しました。特に鴟尾は残存部位を基に全体の復元に成功することができました。復元された鴟尾は鰭が際立ってリアルな形状で、胴部に「蓮華文」のスタンプと唐草文が施されるなど豪華な仕様である事が判明しました。奈良時代の寺院とその瓦を供給した窯跡がセットで確認された全国でも非常に希少な事例であり、古代寺院の建立の背景を伺うことができる史跡としても注目されています。



上坂廃寺の屋根を飾った鴟尾（復元品）
（築上町 船迫窯跡公園展示資料）

「病」と「火事」の恐怖

9月1日は「防災の日」で、例年各地で防災に関する取り組みが行われています。国内にみられる三重塔などの木造塔は地震による倒壊事例は確認できませんが、火事・落雷による焼失を回避することは困難なものでした。また「病」をはじめ、火事や落雷などの災いは目に見えないものの仕業と考えられ、これらに対する恐怖は現在もみることができます。2つの瓦はこれらの邪悪なものが侵入することを防止し、災いが起きてもそれを鎮める目的で飾られたものと考えられ、文化財的価値と併せて当時の人々の精神文化の一端を伺うことができる数少ない資料としても注目されます。

（井上信隆）